

国語 1 話し合いをする（「フィルターバブル現象」）

藤田さん 私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

今井さん たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなっていると感じませんでしたか。

藤田さん そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。①このあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいるのですか。

今井さん 私は、図書館や書店で本を選んでみます。読みたい本を見付けるのは時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味が広がると感じています。

藤田さん 図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が偏るような状態にはならないでしょうね。

山岡さん そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。②おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

山岡さん フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これらどのように本を選ぶと思いますか。

(図) **フィルターバブル現象**
自分の好む情報「だけ」に囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

(解説)
インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。
例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

山岡さん 皆さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか。

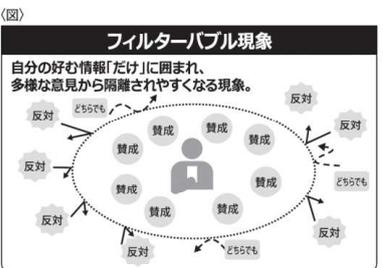
今井さん 私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、趣味にしている特撮に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん (解説)の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性がありそうです。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか。

今井さん 身近なテーマでよいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、皆さんはどうですか。

1 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」と「話し合いの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。
話し合いの一部

- 三 「話し合いの一部」の線部③「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。」という発言について説明したものと、最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。
- 1 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるといふ事実を、具体例を示しながら述べている。
 - 2 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという意見を、理由を明確にして述べている。
 - 3 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるといふ意見を、理由を明確にして述べている。
 - 4 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという事実を、具体例を示しながら述べている。



- 二 「話し合いの一部」の線部②「(図)のこのあたりにいるような感覚ですね。」について、(図)の中で、藤田さんが指し示していると考えられる部分を○で囲みなさい。
- ※ 左の(図)は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。
- 1 藤田さんの経験が、「フィルターバブル現象の資料」の内容に当てはまるのかどうかを確認しようとしている。
 - 2 藤田さんの経験が、「フィルターバブル現象の資料」の内容とは関係していないことを明らかにしようとしている。
 - 3 藤田さんの経験をもちに、「フィルターバブル現象の資料」の内容に反対する意見を述べようとしている。
 - 4 藤田さんの経験をもちに、「フィルターバブル現象の資料」の内容に誤りがあることを指摘しようとしている。

四 【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたなどどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、一本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 フィルター・バブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くかが分かるように書くこと。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

出題の趣旨

話し合いをする場面において、次のことができるかどうかをみる。

- ・ 必要に応じて質問しながら話の内容を捉えること
- ・ 資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すこと
- ・ 意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること
- ・ 話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめること

「A話すこと・聞くこと」の学習においては、「話題の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討、考えの形成（話すこと）」、「表現、共有（話すこと）」、「構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）」、「話し合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）」に関する各指導事項が示す資質・能力を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。話し合いは、話すことと聞くことが交互に行われる言語活動であり、それぞれの生徒が話し手でもあり聞き手でもある。話し合いの過程では、「話すこと」と「聞くこと」に関する資質・能力が一体となって働くため、指導に当たっては、「話すこと」に関する指導事項と「聞くこと」に関する指導事項との関連を図ることが重要である。

少人数での話し合いは、対話やグループでの協議など、日常生活や社会生活で頻繁に行われる。このことを踏まえ、生徒が日常生活や他教科等での話し合いに生かすことを意識しながら学習できるように指導することが大切である。また、多人数での話し合いに比べて、一人一人の参加者が発言する機会が多くなること、話し手と聞き手との距離が近く、聞き手の反応を捉えながら話しやすいことなどの特徴や、話し合いの目的や進め方などを共有しやすいなどの利点を生かして指導することが重要である。さらに、多人数での話し合いの際に、少人数での話し合いで学習したことを生かすことができるように指導することも大切である。

本問では、【フィルターバブル現象の資料】を基に、少人数で話題を決めて話し合う場面を設定した。話の内容を正確に理解するために質問したり、資料を用いて自分の考えを伝えたり、意見と理由との関係について注意して発言を聞いたりして話合いを進め、話題や展開を捉えながら自分の考えをまとめることを求めている。

■学習指導要領に示されている言語活動例との関連

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

イ 互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う活動。

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

イ それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする活動。

(参考)

〔第3学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

イ 互いの考えを生かしながら議論や討論をする活動。

設問一

趣旨

必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめること。

《構造と内容の把握、精査・解釈、考えの形成、共有（聞くこと）》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答
①	1	63.5	◎
	2	4.0	
	3	28.0	
	4	4.0	
	99	0.1	
	0	0.4	

2. 分析結果と課題

- 解答類型 2～4 の反応率の合計は36.0%である。このように解答した生徒は、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることに課題がある。

解答類型 2 の生徒は、今井さんの発言にある「他の本の情報に触れにくくなっている」という状態が、【フィルターバブル現象の資料】の「情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態」を具体的に言い換えていると理解できず、藤田さんの経験が【フィルターバブル現象の資料】の内容とは関係していないことを明らかにしようとしていると誤って捉えたものと考えられる。

解答類型 3 の生徒は、今井さんの発言にある「他の本の情報に触れにくくなっている」という状態が、【フィルターバブル現象の資料】の「情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態」を具体的に言い換えていると理解できず、「でも」という部分に着目し、藤田さんの経験を基に、【フィルターバブル現象の資料】の内容に反対する意見を述べようとしていると誤って捉えたものと考えられる。

解答類型 4 の生徒は、今井さんの発言にある「他の本の情報に触れにくくなっている」という状態が、【フィルターバブル現象の資料】の「情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態」を具体的に言い換えていると理解できず、藤田さんの経験を基に、【フィルターバブル現象の資料】の内容に誤りがあることを指摘しようとしていると誤って捉えたものと考えられる。また、藤田さんが「他の本の情報に触れにくくなっている」状態にはなっていないと誤って捉えたものとも考えられる。

3. 学習指導に当たって

話の内容を正確に理解するために質問する

質問する際には、話の内容を捉え、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要である。その際、第1学年〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」の(2)「ア紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする活動。」などの言語活動を通して、適切な機会を捉えながら、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、目的や状況に応じて質問できるように指導することが大切である。

例えば、実際に話し合いをする学習において、目的や状況に応じた質問になっているかを検討したり振り返ったりするような学習活動を位置付けることが考えられる。その際、質問の意図が明確であったか、質問の意図が聞き手に伝わったか、質問が話し合いの話題に沿っていたかなどについて、質問を具体的に取り上げて検討できるように指導することが大切である。このような指導を行う際には、ICT 機器を活用して話し合いの場面を記録し、その記録を用いることも効果的である。

設問二

趣旨

資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第2学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

ウ 資料や機器を用いるなどして、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。 《表現、共有(話すこと)》

1. 解答類型と反応率

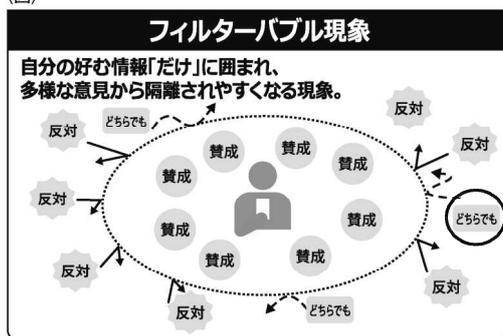
問題番号		解答類型		反応率 (%)	正答
1	二	1	〈図〉の「  <h2>2. 分析結果と課題</h2>		

- 解答類型99の反応率は27.7%である。このように解答した生徒は、資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことに課題がある。具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例) 〈図〉

フィルターバブル現象

自分の好む情報「だけ」に囲まれ、
多様な意見から隔離されやすくなる現象。

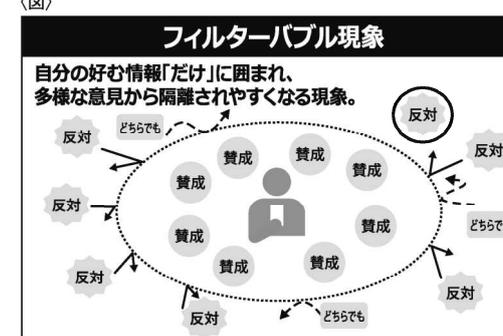


このように解答した生徒は、——線部②の「〈図〉」のこのあたりにいるような感覚ですね。」で、藤田さんが、インターネットで本を選ぶことについてどのように考えているかを述べていると誤って捉えたものと考えられる。また、藤田さんの発言の「それ以外」という部分に着目し、【フィルターバブル現象の資料】の「賛成」、「反対」以外を指していると誤って捉えたものとも考えられる。

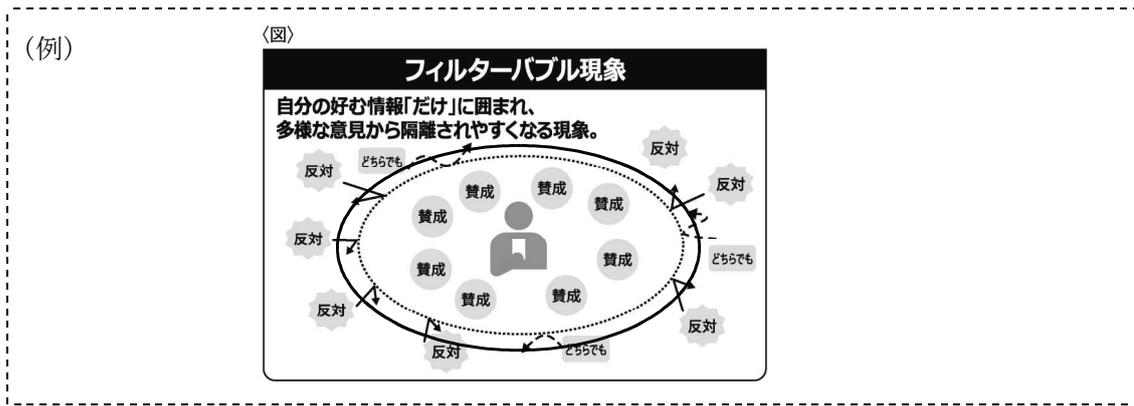
(例) 〈図〉

フィルターバブル現象

自分の好む情報「だけ」に囲まれ、
多様な意見から隔離されやすくなる現象。



このように解答した生徒は、——線部②の「〈図〉」のこのあたりにいるような感覚ですね。」の「このあたり」という部分が、藤田さんの発言の「それ以外の本の情報」を示していると誤って捉えたものと考えられる。



このように解答した生徒は、【フィルターバブル現象の資料】の〈図〉と資料の中の言葉とを関連付けて捉えることができず、〈図〉の が、通信機器の利用者を「多様な意見から隔離」する目に見えないフィルターを表していることが理解できなかつたものと考えられる。また、藤田さんの発言の「言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。」という部分が、【フィルターバブル現象の資料】の の内側に当てはまる経験を述べたものであることを捉えることができなかつたものとも考えられる。

3. 学習指導に当たって

資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す

聞き手に自分の考えを伝える際には、分かりやすく伝わるように資料を用いるなどして表現を工夫することが重要である。資料や機器を用いるのは、話の要点や根拠を明らかにしたり、説明を補足したり、中心となる事柄を強調したりするなど、聞き手に分かりやすく伝えるためである。このことを踏まえて、資料や機器を適切に用いることができるよう指導することが大切である。

例えば、話したり話し合ったりする際に、目的や状況、相手に応じて、必要な資料や機器を検討する学習活動が考えられる。話し手の考えを正確に伝え、聞き手の理解をより深めるには、どのような資料や機器が必要なのか、また、それらをどのように用いれば効果的かなど、具体的な状況を想定して検討することが重要である。また、実際に用いた資料や機器が効果的であったかについて、聞き手と共に振り返ることも有効である。指導に当たっては、話し言葉の特徴や、視覚に訴えることの効果などを踏まえて考えることができるように、第2学年〔知識及び技能〕の(1)「イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。」などとの関連を図ることが考えられる。

設問三

趣旨

意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 知識及び技能

(2) 情報の扱い方に関する事項

ア 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。

《情報と情報との関係》

1. 解答類型と反応率

問題番号		解 答 類 型		反応率 (%)	正答
1	三	1	1と解答しているもの	17.3	
		2	2と解答しているもの	17.8	
		3	3と解答しているもの	44.4	◎
		4	4と解答しているもの	20.0	
		99	上記以外の解答	0.0	
		0	無解答	0.5	

2. 分析結果と課題

- 令和5年度【中学校】国語1二（正答率65.3%）において、「意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること」に課題が見られた。これに関連して、本問でも、同様の趣旨で出題したところ、正答率は44.4%であった。今回の結果から、意見と根拠の関係を理解することについて、引き続き課題があると考えられる。

(参考)

○関連する問題

問題番号	問題の概要	正答率	解説資料	報告書
R5 1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	65.3%	pp.10-16	pp.19-31

(参照)

「令和5年度【中学校】報告書」 pp.19-31

https://www.nier.go.jp/23chousakekkahoukoku/report/data/23mlang_04_k_1.pdf#page=2

- 解答類型1、2、4の反応率の合計は55.1%である。このように解答した生徒は、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することに課題がある。——線部③の発言の中で、おすすめの本のコーナーを利用することについて、今井さんが「自分とは異なる価値観に触れることもできますね」という意見を述べていることを捉えることができなかったものと考えられる。

解答類型1の生徒は、——線部③の発言の中の意見に当たる部分を事実、理由に当たる部分を具体例であると誤って捉えたものと考えられる。解答類型2の生徒は、——線部③の中の意見に当たる部分とその理由に当たる部分とを取り違えて捉えたものと考えられる。解答類型4の生徒は、——線部③の発言の中の「ので」という接続助詞の働きを理解することができず、「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されている」という部分が事実、「自分とは異なる価値観に触れることもできますね」という部分が具体例であると誤って捉えたものと考えられる。

3. 学習指導に当たって

意見と根拠など情報と情報との関係を理解し、話や文章の中で捉える

相手の考えを理解したり自分の思いや考えを表現したりするためには、原因と結果、意見と根拠など、話や文章に含まれている情報と情報との関係について理解することが重要である。その際、意見とそれを支える根拠がどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることができるように指導することが大切である。また、各学年の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」(2)アに示されているような「話したり聞いたりする活動」や「B書くこと」(2)アに示されているような「説明的な文章を書く活動」、「C読むこと」(2)アに示されているような「文章を読み理解したことや考えたことをまとめる活動」などとの関連を図ることが効果的である。

例えば、話題を決めて互いの考えを伝えるなどして話し合う際に、意見とそれを支える根拠を示して発言することができているかなど、発言を振り返る学習活動を位置付けることが考えられる。その際、具体的な発言を取り上げ、どの部分が意見でどの部分が根拠なのかを確かめたり、示した根拠が意見を支えるものになっているかを確かめたりするなど、情報と情報との関係を捉えることができるよう指導することが大切である。なお、生徒の理解が不十分な場合には、基礎的・基本的な内容を改めて確認することも必要である。例えば、「根拠とは、考えや言動の拠り所となるもののことを指す」など、学習で用いる言葉の意味を確認するなどして、指導の効果を高めるよう工夫することが重要である。

設問四

趣旨

話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

《話合いの進め方の検討、考えの形成、共有（話し合うこと）》

1. 解答類型と反応率

問題番号	解答類型	反応率 (%)	正答	
1	四	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書いている。 ② 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書いている。 ③ 実際に話すように書いている。		
		(正答例) ・ 山岡さんの発言にあった、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用してみたいと思います。自分とは異なる価値観に意識して触れ、多様な意見に触れにくい状態に陥らないようにすることが大切だと思いました。 ・ 藤田さんのように、どのような本を読みたいのかが決まっているときには、フィルターバブル現象を利用すると、たくさん本から短時間で本を選ぶことができ便利だと思うので、情報の偏りに気を付けながら、インターネットを使って本を選ぶことも取り入れていきたいと思います。 ・ 今井さんが言うように、フィルターバブルには好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるし、藤田さんが言うように、それ以外の本に出合いにくくなることもあるので、本を選ぶときには、インターネットと図書館などを使い分けたいと思います。		
	1	条件①、②、③を満たして解答しているもの	45.1	◎
	2	条件①、②を満たし、条件③を満たさないで解答しているもの	0.0	
	3	条件①、③を満たし、条件②を満たさないで解答しているもの	15.1	
	4	条件②、③を満たし、条件①を満たさないで解答しているもの	16.9	
	99	上記以外の解答	13.2	
	0	無解答	9.7	

2. 分析結果と課題

- 解答類型3について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ フィルターバブル現象の特徴は、自分の好む情報だけに囲まれて多様な意見に触れにくくなることなので、そうならないように図書館などで本を選びたいと思います。

このように解答した生徒は、フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くことと、実際に話すように書くことはできているが、自分の考えが、【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くことができていない。

- 解答類型4について、具体的な例としては、以下のようなものがある。

(例)

- ・ 山岡さんが話してくれた、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用して本を選んでみたいと思いました。
- ・ フィルターバブル現象は、「その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる」ということなので、自分の好きなものがすぐ見られるのは便利だけれど、今井さんのような思いがけない本との出会いはなくなってしまうので、そういう点では困ると思います。

このように解答した生徒は、自分の考えが、【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くことと、実際に話すように書くことはできているが、フィルターバブル現象の特徴を取り上げて書くことや、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くことができていない。

3. 学習指導に当たって

話題や展開を捉えながら話し合い、発言を結び付けて自分の考えをまとめる

話し合いを通じて自分の考えをまとめる際には、何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識し、互いの発言を結び付けられるようにすることが重要である。そのためには、話し合いにおけるいずれの段階においても、話題を意識しながらその経過を捉えて話したり聞いたりすることができるように指導することが大切である。また、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することも大切である。

例えば、グループで話題を決めて話し合い、話し合ったことを基に自分の考えをまとめる学習活動が考えられる。その際、話し合いの序盤で話題について共通理解したり、発言がある程度出された段階でそれらの内容を整理したりするなど、小学校で学習したことを生かして建設的に話し合うことが重要である。その上で、自分の発言と他者の発言とを結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして自分の考えをまとめ、自分の考えの基になった発言や話し合いの内容を整理して述べることができるように指導することが大切である。また、自分の考えが話し合いの話題や内容とどのように結び付いているのか、そのつながりが分かるようにまとめることができたかなどを振り返ることも効果的である。具体的な授業のアイディアの一例を次に示す。

授業アイデア例 話し合いの話題や展開を捉えながら、発言を結び付けて自分の考えをまとめる

【本アイデア例と関連する問題及び学習指導要領における内容】

設問四 正答率 45.1%

〔第1学年〕 思考力、判断力、表現力等 A

オ 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめること。

教材

- 教師が作成した話し合いの話題に関する資料、教科書に掲載されている話し合いの話題に関する資料

※ 本アイデア例では、令和6年度全国学力・学習状況調査【中学校】国語Ⅰの【フィルターバブル現象の資料】を参考にして作成した【エコーチェンバー現象の資料】を用いている。

学習の流れ

第1時

① 学習の見通しをもつ。



教師

授業や生徒会活動などで、資料を基に話題を決めて話し合うことがありますね。その際、何について話し合っているのか、話し合いがどのように進んでいるのかを捉えながら話し合うことができているでしょうか。そのような話し合いをするためには、どのようなことが大切だと思いますか。

〔生徒の発言の例〕

何について話し合っているのかは、私は、結構、意識しています。自分が発言するときは、話し合っている話題と関連付けて話すようにしています。話がそれていないか、相手の発言もよく聞くようにしています。



発言の内容がよく分からないのに質問しないでいると、そのまま話が進んでいくことがあります。分からないときには質問して、発言の内容を確かめてから自分の考えを話すことも大切だと思います。

話し合いでたくさん意見が出るのはよいのですが、まとまりがつかなくなることがあります。話し合いの途中で、どのような意見が出ているのか、出てきた意見の共通点と相違点を整理することも必要だと思います。

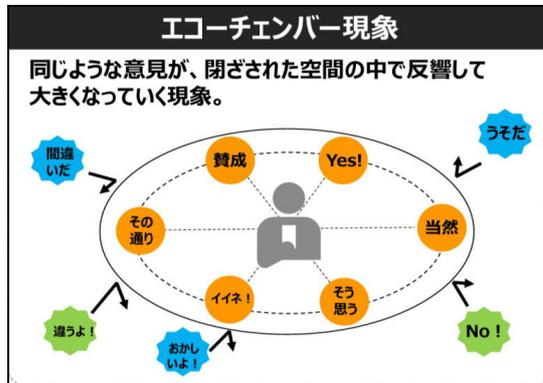


話題や展開を捉えながら話し合うために大切なことはいろいろありそうですね。今皆さんが発言したことを生かして、実際に話し合いを行ってみましょう。ところで、皆さんは「エコーチェンバー現象」を知っていますか。資料を見てみましょう。

② 資料を読み、話題を確認する。

[エコーチェンバー現象の資料]

〈図〉



〈解説〉

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）*などで、自分と同じ趣味をもつ人や似たような考えをもつ人とばかりつながっていると、同じような発言に繰り返し触れ、あたかもその意見だけが正しいという思いにとらわれてしまう。このような、特定の意見や思想が、閉ざされた空間の中で反響して大きくなっていく状態のことを「エコーチェンバー現象」という。

※SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）：
インターネット上のコミュニケーションを促進する登録制サービスのこと



エコーチェンバー現象に関する資料を基に話し合った例があります。
ワークシートを見てみましょう。

[ワークシートの例①]

【話し合いの一部（導入部の例）】



エコーチェンバー現象という言葉を知りました。皆さんは資料にあるような経験がありますか。

山岡さん



私はあるスポーツ選手を応援しているのですが、同じ選手を応援している人たちが集まるSNSを使用することがあります。その選手のかわりやすさを発信すると、賛同する意見がたくさん返ってきます。これは、エコーチェンバー現象が起きているということですね。

今井さん



そうだと思います。〈解説〉の内容と同じ状態ですね。そうだとすれば、気の合う仲間と集まって好きなことについて話しているときにも、エコーチェンバー現象が起こることなのではないでしょうか。

藤田さん



同じ意見をもった人たちが集まった場で交流していると、エコーチェンバー現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「エコーチェンバー現象の影響にはどのようなものがあるのか」にして話し合ってみませんか。

山岡さん

【話し合いのメモ】

【話し合いを踏まえた自分の考え】

③の話し合いのイメージをもつことができるように、話し合いの進め方や実際の話し合いの様子を例示することが考えられる。

ここでは、ワークシートの上部に話し合いの導入部の例を示し、生徒が続けて話し合うことができるようにしている。

③の話し合いの際に、必要に応じてメモすることができるようにする。

④のまとめの際に、話し合いを踏まえた自分の考えを記入させる。

③ 【話し合いの一部（導入部の例）】の続きを話し合う。



グループで、【話し合いの一部（導入部の例）】の続きを話し合ってみましょう。話題について理解が深まるように、お互いの発言のつながりに注意して話し合いを進めましょう。なお、自分たちの話し合いの様子を後から振り返ることができるように、録画しておきましょう。

〔生徒の話し合いの例〕

今井さんの発言にあるように、同じ選手を応援している人同士でコメントをし合うと盛り上がりませんか。同じ選手を応援する仲間も増えますね。



そのようなよい影響もあるけれど、そうでない場合もあると思います。

えっ、それは、どういうことですか。



例えば、自分が述べた意見に賛成する意見ばかりを見たり聞いたりしていると、本当は反対している意見や違う考えもあるかもしれないのに、それには気付かず、自分の意見が正しいのだと思い込んでしまう恐れがあると思います。

それは、「違うよ」や「おかしいよ」というような意見が届かない状態になっているということですね。〈図〉を使って説明すると……。



④ 話し合ったことを基に、自分の考えをまとめる。



今日は、「エコーチェンバー現象の影響にはどのようなものがあるのか」という話題について話し合いました。話し合ったことを踏まえて、話題についてあなたが考えたことをワークシートに記入しましょう。

〔【話し合いを踏まえた自分の考え】の記入例〕

エコーチェンバー現象は、自分と同じような考えに繰り返し触れることで、その意見だけが正しいという思いにとらわれてしまう状態のことだと知りました。私たちの生活の中でもこの現象が起きているようなので、気を付けたいと思います。

〇〇さんの意見を聞いて、エコーチェンバー現象の問題点が具体的に分かりました。エコーチェンバー現象の影響を受けないようにしたいと考えが変わりました。

※ 生徒が記入した【話し合いを踏まえた自分の考え】を④の解答類型に照らして評価し、次時に使うワークシートに示す「【話し合いを踏まえた自分の考え】の例」の参考にすることが考えられる。

第2時

⑤ 前時の学習を振り返る。



前回皆さんは、エコーチェンバー現象の影響にはどのようなものがあるかについて話し合い、話し合いを通じて考えたことをまとめました。ワークシートに示した例について、話し合いの話題や話し合った内容を踏まえて考えがまとめられているかを確認してみましょう。

〔ワークシートの例②〕

【話し合いを踏まえた自分の考え】の例

エコーチェンバー現象は、自分と同じような考えに繰り返し触れることで、その意見だけが正しいという思いにとらわれてしまう状態のことだと知りました。私たちの生活の中でもこの現象が起きているようなので、気を付けたいと思います。

〇〇さんの意見を聞いて、エコーチェンバー現象の問題点が具体的に分かりました。エコーチェンバー現象の影響を受けないようにしたいと考えが変わりました。

【話し合いのメモ】

【話し合いを踏まえた自分の考え】

前時に生徒がまとめた【話し合いを踏まえた自分の考え】を受け、生徒の実態に応じて、意図的に例を示す。

ここでは、話し合いの中の誰の発言と結び付くのが明確でないもの（解答類型3）と、話題とのつながりが具体的でないもの（解答類型4）を取り上げている。

⑦の話し合いの際に、必要に応じてメモすることができるようにする。

⑧のまとめの際に、話し合いを踏まえた自分の考えを記入させる。

⑥ 「【話し合いを踏まえた自分の考え】の例」のまとめ方について、よさや課題点を出し合う。

〔生徒の発言の例〕



一つ目の例は、エコーチェンバー現象の〈解説〉を踏まえて自分の考えをまとめているんですね。

そうですね。資料を基にして話し合ったことで、エコーチェンバー現象の特徴がよく分かったということが伝わってきます。でも、どのような影響があるのかについては、あまりよく分かっていない感じがします。



二つ目は、誰の意見によって理解が深まったのかが分かりますね。資料からだけでは、はっきりと分からなかった問題点が、話し合いによって理解できたということですね。でも、エコーチェンバー現象のどんな影響を受けないようにしようと思ったのでしょうか。

話し合いの中で「エコーチェンバー現象の影響にはどのようなものがあるのか」について、もっと具体的な話が出てきていたと思います。自分の考えをまとめるときに、話し合いで出てきていた具体的な内容を踏まえると、考えがより深まるのではないのでしょうか。





今、皆さんから出された意見は、皆さん自身がまとめた自分の考えにも当てはまるかもしれません。話し合いを踏まえて自分の考えをまとめるためには、話題や資料の内容を捉え、どのような発言を踏まえたのかが分かるようにして、考えを整理したり深めたりすることが大切です。

今日は、前の時間の話し合いで分かったエコーチェンバー現象の影響を踏まえ、これから自分の生活で意識したいことについてグループで話し合い、自分の考えをまとめてみましょう。

⑦ 前時の話し合いで分かったことを踏まえ、自分の生活で意識したいことについて話し合う。

〔生徒の話し合いの例〕

前回の話し合いで、エコーチェンバー現象の資料に「あたかもその意見だけが正しいという思いにとらわれてしまう」とあって、怖いと感じました。



同感です。私も、話の合う友達とのSNSでのやりとりを振り返ると、違う考えや話題を出しにくいと感じたことがありました。これからは、いろいろな人と関わりたいと思います。

いろいろな人と関わるとは、具体的にどうすることですか。



例えば、いつも同じ人とばかり話すのではなく、意識して、クラスのいろいろな人と話すことです。

それはよい考えですね。資料には、「特定の意見や思想が、閉ざされた空間の中で反響して大きくなっていく状態のこと」とあるので、私は特定の意見に偏らないようにしていきたいです。意識して、反対意見や違う考えも見たり聞いたりしたいと思います。



⑧ 話し合ったことを基に、自分の考えをまとめる。



それでは、資料とここまでの話し合いの両方を踏まえて、もう一度自分の考えをまとめてみましょう。

〔【話し合いを踏まえた自分の考え】の記入例〕

エコーチェンバー現象は、自分と同じような考えに繰り返し触れ、その意見だけが正しいという思いにとらわれてしまう状態のことなので、ものの見方が狭くなったり偏ったりすると思います。〇〇さんが言っていたように、いつも同じメンバーで話すのではなく、いろいろな人と関わって様々な考えに触れることを心掛けたいと思います。SNSではなく、顔を合わせて話すことも大切にしたいです。

私も〇〇さんと同じように、違う考えや話題を出しにくいと感じたことがあり、そのことが、資料にあるように、同じような意見が閉ざされた空間の中で反響して大きくなっていくことにつながるのだと分かりました。違う考えや話題を出しにくいと感じたら、エコーチェンバー現象のことを思い出して、話を切り上げることも大事なのではないかと思います。

⑨ 学習を振り返る。



話し合いを通して、自分の考えを広げたり深めたりするには、どのようなことに気を付けるとよいでしょうか。グループで話し合ったり、自分の考えをまとめたりして気付いたことを振り返ってみましょう。

※ 生徒の実態や学習状況に応じて、以下のような観点を示して学習を振り返ることも考えられる。

振り返りの観点の例

- これまでに学習したことで、この単元の学習に生かしたことはどのようなことか。
- 1時間目にまとめた自分の考えと、2時間目にまとめた自分の考えでは、どのような違いがあったか。また、なぜそのような違いが生まれたか。
- 自分の考えを広げたり深めたりするには、どのように話し合うことが大切か。
- 話し合ったことを踏まえて自分の考えをまとめることには、どのようなよさがあるのか。
- この学習で学んだことを、これからの話し合いでどのように生かしていきたいか。

【本アイデア例を活用する際のポイント】

- 他教科等の学習での話し合い活動と関連付けて、本単元を位置付けることも有効である。
- 他教科等の学習との関連を図り、生徒や学校の実態に応じて別の話題で話し合うことも考えられる。
〔話題の例〕「認知バイアス」、「倫理的消費（エシカル消費）」、「ユニバーサルデザイン」、「共有経済（シェアリングエコノミー）」など
- 必要に応じて話し合いの様子を録画し、振り返りの際に活用することも考えられる。

※出典等

- ・ 【フィルターバブル現象の資料】にある〈図〉は、「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」(令和5年7月4日 文部科学省 初等中等教育局)による。
〈解説〉は、イーライ・パリサー著／井口耕二訳『フィルターバブルインターネットが隠していること』(2016年3月 早川書房)、総務省編『令和元年版情報通信白書』(2019年7月 日経印刷)、総務省ウェブページなどを参考にした。
- ・ 【エコーチェンバー現象の資料】にある〈図〉は、「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」(令和5年7月4日 文部科学省 初等中等教育局)による。
〈解説〉は、「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」(令和5年7月4日 文部科学省 初等中等教育局)、総務省ウェブページなどを参考にした。